



HPLCカラム インタクト

ナーディス

Nardis

逆相+両イオン交換

順相+両イオン交換

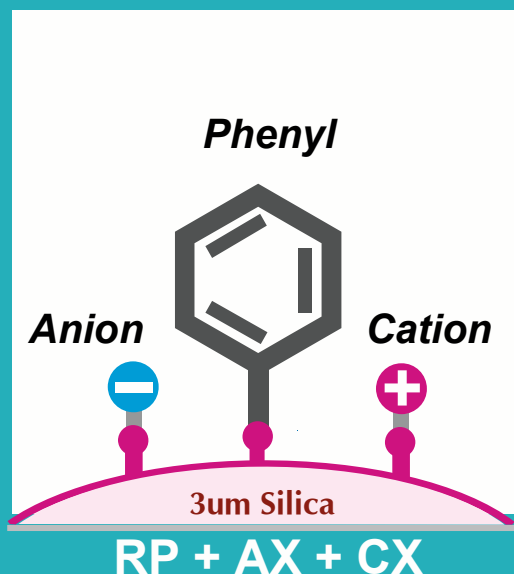
ND-RX

ND-NX

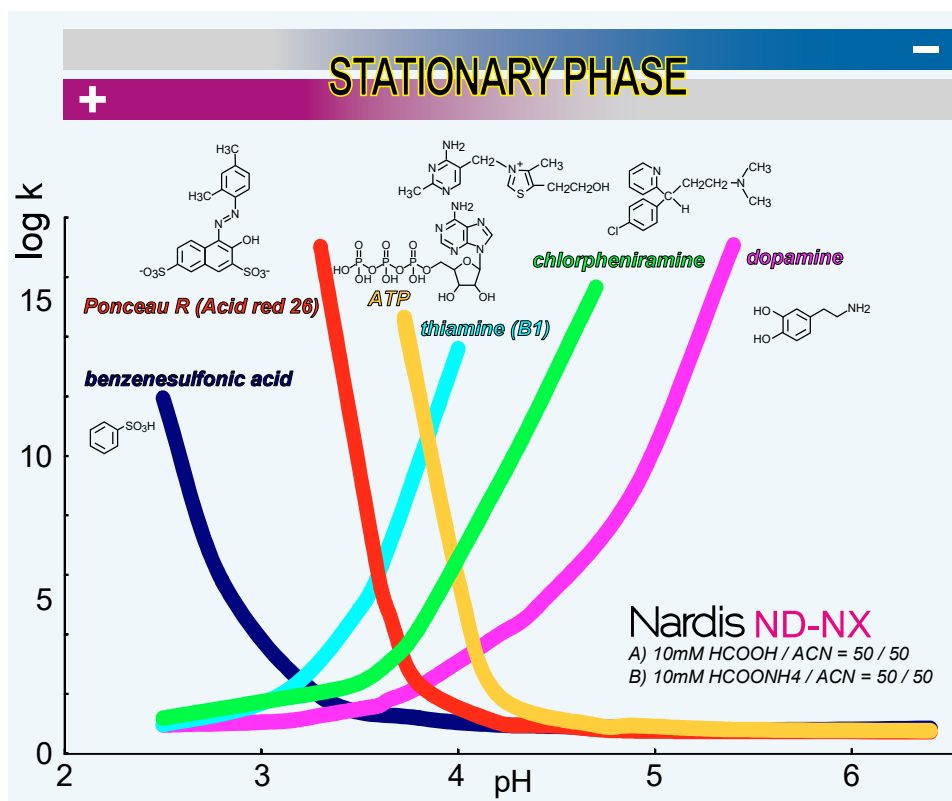
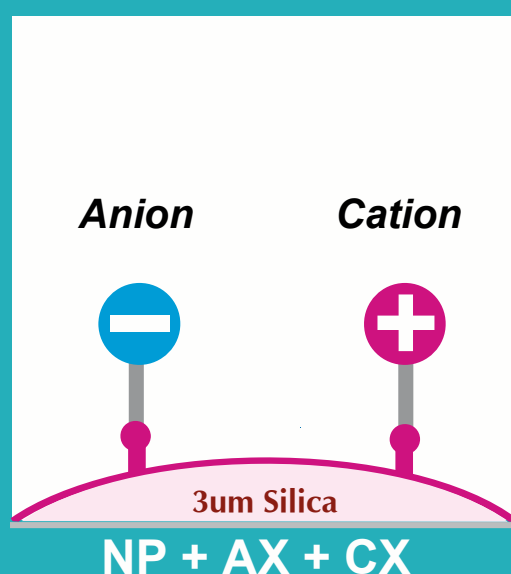
全多孔性シリカ
粒子径 3 μm
細孔径 13nm

従来のカラムで保持や分離が困難なときに
イオン性の高極性物質の保持・分離改善に

Nardis ND-RX



Nardis ND-NX



Nardis (ナーディス) カラムにはアニオンとカチオンの両イオンリガンドが組み込まれています。これら電荷由来の静電的相互作用により、カチオン交換やアニオン交換が個別にはたります (左図)。

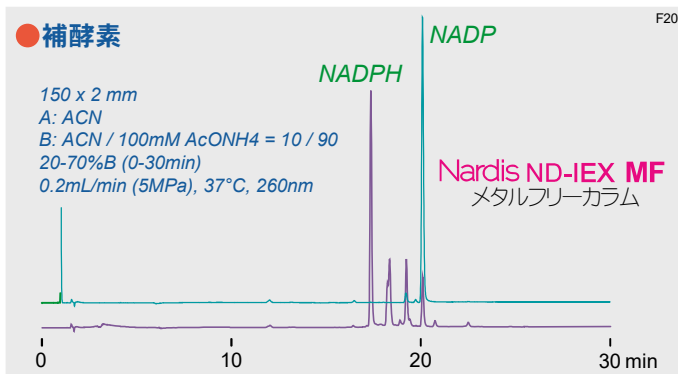
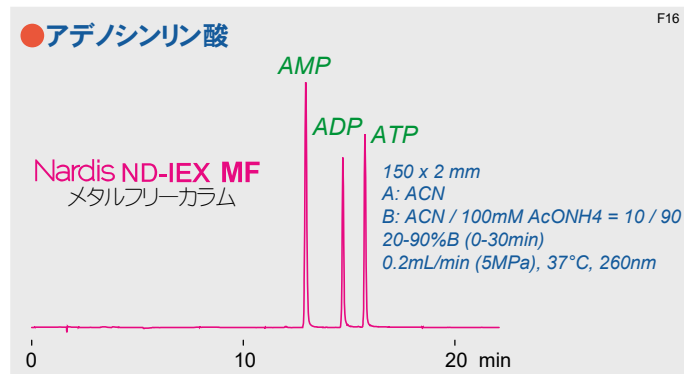
ND-NXは「順相モード」によるイオン性高極性化合物の分析に適しています。一方ND-RXはイオンの・静電的相互作用により従来のフェニルカラムとは異なる分離特性が期待できます。

Nardisカラムは、従来カラムで保持や分離が困難なときに効果を発揮できる可能性があります。

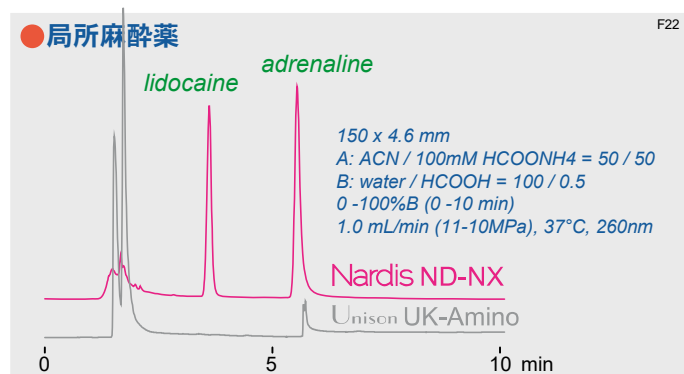
♪ イオン性の高極性化合物に

Nardis ND-NX

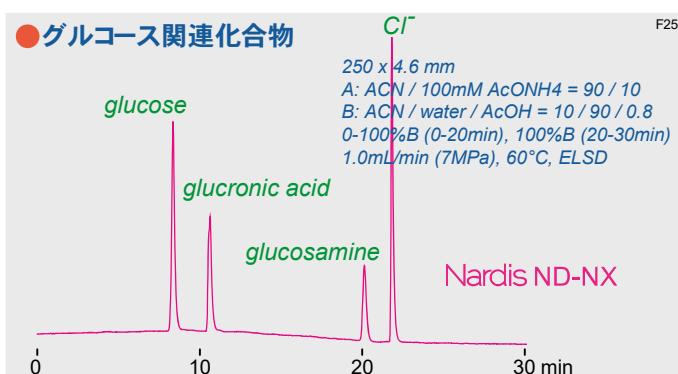
NardisND-NXは順相+イオン交換カラムです。イオン性の高極性物質、とりわけリン酸化合物には優れた保持特性を発揮します。従来のアミノカラム(UnisonUK-Amino)やシリカカラム(UnisonUK-Silica)による保持や分離の改善にも効果的です。



従来のODSカラムではイオン対試薬が必要なアデノシンリン酸や補酵素が順相+アニオン交換により簡単な移動相組成で分析できます。



高極性の塩基性化合物はアミノカラムでは保持が弱くて分離も困難ですが、Nardis ND-NXを用いた順相+カチオン交換モードにより保持と分離を改善することができます。



グルコースとそのウロン酸とアミノ糖の同時分析は従来のアミノカラムでは困難ですが、Nardis ND-NXを用いた順相+カチオン交換モードにより充分な保持と分離を得ることができます。

♪ 逆相+静電的相互作用による分離特性の改善に

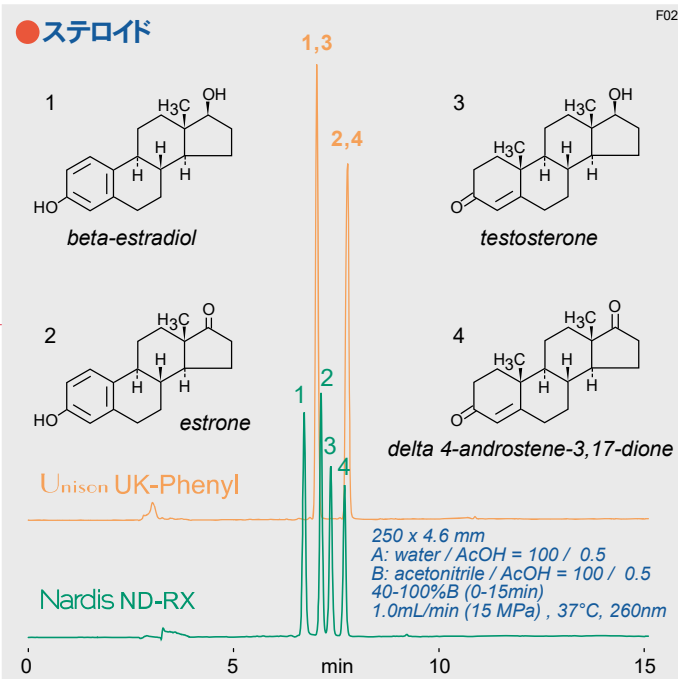
Nardis ND-RX

NardisND-RXは逆相+イオン交換カラムです。一般的な逆相カラムで分離が難しいときに有効な場合があります。

ステロイド化合物はステロイド骨格構造が似ているため、まれに分離が難しいことがあります。フェニルカラムやピフェニルカラムはステロイド類に良好な応答を示しますが、右図のように分離できない場合もあります。Nardis ND-RX カラムは逆相モードに加えて、荷電由来の静電的相互作用によりステロイドのπ電子と相互作用して分離が改善できる場合があります。溶質のイオン性によっては逆相+イオン交換モードが必要なことがあり、Nardis ND-RX による検討が推奨されます。

♪ ご注意

- 両イオン交換カラムですが、カチオン物質アニオン物質の同時分析を目的としたものではありません。
- 固定相にイオンリガンドを含むため、移動相には必ずpH調整剤と適度なイオン強度が必須となります。
- イオン交換モードを有しており、本カラムの運用に際しては「グラジエント溶出」が必要となります。
- 固定相は弱イオン交換リガンドであるため、物質にイオン性官能基が複数存在する場合やpKaが4-5の有機酸などの弱イオン性物質は、分析条件によっては複数のピークになる場合があります。
- 本製品は、すべての物質の保持やピーク形状を保証するものではありません。分析の最適化には移動相(有機溶媒, pH, イオン強度)の工夫が必要です。



取扱店

Imtakt
インタクト株式会社

ホームページにおいてください。
最新情報があります。

www.imtakt.com

〒600-8813 京都市下京区中堂寺南町 京都リサーチパーク
PHONE:075-325-2018 FAX:075-325-2381 E-MAIL:info@imtakt.com

BRNDX-WG20